

日本農芸化学会2020年度大会 ランチョンセミナー LS-1-2

HPLC検出器を使いこなす!

～ユニバーサル検出器CADと食品分析での活用例～

日時 3月26日(木) 12:30～13:20

会場 A15(九州大学 伊都キャンパス センター2号館3F 2305教室)

演者 浜野 瑞奈

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

クロマトグラフィー&MS事業部 CMSアプリケーション部

セミナー要旨

HPLCは、さまざまな検出器を活用することで幅広い化合物の定性・定量を行うことができますが、化合物の構造や化学的特性によっては、最適な検出感度が得られない場合もあります。本講演では、UV検出器などの汎用検出器の原理や特長を解説します。また、昨今注目を集めている荷電化粒子検出器(CAD)についても、その検出原理や定量性などの特長を解説し、CADを用いた分析事例として、食品をターゲットとしたアプリケーションデータを中心に紹介いたします。



Corona Veo荷電化粒子検出器と
UltiMate 3000 LCシステムの組み合わせ

荷電化粒子検出器

Thermo Scientific™ Corona™ Veoの特長

- RI検出器やELSDよりも高感度な検出が可能
- 重量依存の応答性を得られるため、UV検出器よりも正確なマスバランスを実現
- Thermo Scientific UltiMate™ 3000 LCシステムの組み合わせにより、より高速な分析を実現
- メーカーを問わず、LCシステムと接続が可能

© 2019 Thermo Fisher Scientific Inc. 無断複写・転写を禁じます。 LCMS199_A1912SO
ここに記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
ここに記載されている内容は予告なく変更することがあります。
ここに記載されている製品は研究用機器であり、医療機器ではありません。

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

分析機器に関するお問い合わせはこちら

TEL: 0120-753-670 FAX: 0120-753-671

Analyze.jp@thermofisher.com

facebook.com/ThermoFisherJapan

@ThermoFisherJP

thermofisher.com

ThermoFisher
SCIENTIFIC